

まもなく、大東亜戦争の敗戦から七十七年目を迎えます。

敗戦により、巧妙な「GHQ」の洗脳や、日本の中の「敗戦利得者」の売国的言動で、戦後の日本人は、日本人としての誇りや自信を無くしてしまいました。

しかし、ようやく長い茫洋（平和ボケ）から目覚める秋が来ました。

ロシアによるウクライナへの侵攻は、話し合いや平和的な外交だけでは、自国を守れないことを証明しました。核を持つ国が、核を持たない国を侵略するという、おそらく二十一世紀には考えられない野蛮な行為が白日の下に晒されたのです。

次は、支那（中国共産党）が台湾を侵攻するでしょう。支那は、台湾を独立国と認めていません。そこで、世界からの非難を「内政干渉」だと強弁するでしょう。

その時、日本はどう動くのでしょうか。

非常に不躑躅な言い方ですが、このタイミングで、凶弾に倒れた安倍元総理が「国葬」になったのは、天の采配としか思えません。安倍元総理ほどの愛国者は、代議士の中にさえ数名しかいません。逆に、脇の甘い、親中派が沢山いるのが現状です。

この「国葬」を通じて、日本が軍隊を持ち、核を持つ「普通の国」になればと願っています。

さて、この大変化の日本で我々中小企業は、どう対処すればいいのでしょうか。

「この秋は、雨か嵐か知らねども、今日のつとめの、田草取るなり」と二宮尊徳が、説いています。来年が、どうあれ、今やるべきことを、しっかりとやることです。

保守とは、「保業守成」即ち業を保ち、成を守るという意味で「創業垂統」を承けるもので、立派な第一代が苦心して仕事を始め、その仕事を後々まで継承されるように伝える、これを創業垂統という。

また、今年は、明治陛下の生誕百七十年、崩御百十年という記念すべき年です。

「五箇条の御誓文」

- 一、広く会議を興し万機公論に決すべし。
- 一、上下心を一にして盛に経綸を行ふべし。
- 一、官武一途庶民に至る迄各其志を遂げ人心をして倦ざらしめん事を要す。
- 一、旧来の陋習を破り天地の公道に基くべし。
- 一、智識を世界に求め大に皇基を振起すべし。

我国未曾有の変革を為さんとし、朕躬を以て衆に先んじ天地神明に誓いひ、大に斯国是を定め万民保全の道を立んとす。衆亦此旨趣に基き協心努力せよ。

ここに、我々の求めるべき答えがあるように思います。頑張りましょう。

今月のポイント

日本再生の年に

我々がしていく!!

